

22 「議会答弁検討システム」で事務負担・印刷物を大幅削減【福島県福島市】



➤ 内製「議会答弁検討システム」に、市議会の質問取り～答弁作成～答弁検討におけるデータを集約し全庁情報共有。作業時間削減等の業務効率化とペーパーレス化を実現

事業の概要

- 市議会の質問取り、答弁作成、答弁検討の一連の流れ全てにおいて、**Word/Excelデータ・紙媒体による作業を無くし、内製システムにデータを集約**することで、**全庁情報共有による答弁検討業務に移行**した。
- 「**仕事の流れは変えずにやり方を変える**」、「**一部の部署からスタート**」でスムーズに全庁に導入。

	質問取り	答弁作成	答弁検討	答弁書	過去データの蓄積
Before	<p>職員 ワード作成 & 総務課に送付</p> <p>総務課 グループウェアで全庁配布</p>	<p>係長 ワード作成 & 印刷して配布</p> <p>課長・部長</p>	<p>各部署 答弁書を紙で提出</p> <p>総務課 参集人数分を複写印刷</p>	<p>総務課 参集人数分を印刷</p> <p>各部署 前日の夕方受取り</p>	<p>各部署 紙やデータのやりとりが多く、過去データは紙答弁集と市議会ホームページ議事録から確認する必要あり</p> <p>総務課</p> <p>市長</p>
After	<p>職員 質問をシステムに入力</p> <p>入力と同時に全庁で閲覧可能</p>	<p>係長 答弁案をシステムに入力</p> <p>入力と同時に課長・部長限らず全庁で閲覧可能</p>	<p>係長 答弁案をシステムに入力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会議直前まで入力可能 ○ 総務課の準備作業が不要 ○ ペーパーレスにて検討会を実施 	<p>総務課 システムからPDF答弁集を出力し、グループウェアで出席者へ配布</p>	<p>過去データをリアルタイムで確認可能（類似質問も柔軟に検索可能）</p>

効果	事務負担と業務時間の削減	総務課：バックヤード業務（集約、印刷、丁合、差し替え等）の削減、各課とのデータ受け渡し作業が不要 各部署：紙の受け渡しで総務課へ足を運ぶ必要がなくなった、総務課とのデータ受け渡し作業が不要 市長答弁検討会：部署単位、議員単位に答弁を抽出しスムーズに検討
	ペーパーレス化	市長との答弁検討会で年間約11,000枚削減、答弁書で年間約44,000枚削減（年間合計55,000枚）

22 「議会答弁検討システム」で事務負担・印刷物を大幅削減【福島県福島市】



(総務省)

取組の経緯・きっかけ、概要を教えてください。

市長は常々 **職員に業務改革と意識改革を求めている**、今回議会答弁をまとめる一連の業務に焦点を当てました。特にバックヤードの職員にかかる負担を改善したいと考えました。

一方、議会答弁に関連する民間ソフトウェアは見あたらず、自らの手で部局を超えて使えるデータベースシステムを作ることで省力化を図り、併せてペーパーレス化したいと考えました。

そこで、Microsoft Accessをフレームに、VBA、ADO、SQLを使って開発しました。



(福島市)



システム作成や全庁的な取組にした工夫や職員の方の声を教えてください。

平成30年の開発当初より、**アジャイル的に機能改善を繰り返しました**。開発側、担当者も同じ職員という意見交換しやすい環境の中で、細かな要望にも、僅かでも業務時間を短縮できるなら機能に組み込み「現場に即した仕様で効率が良いもの」に成長していきました。

システム導入にあたり「今までの仕事の流れを変えるのか」との抵抗感を持つ職員もいるので、**まずは庁内2つの部だけで導入しました**。その後、**市長から「答弁検討会はシステムで行う」との号令があり、一気に拡大しました**。

職員からは、「他の人が書く答弁をリアルタイムに参照できて便利」、「過去の類似データを検索、引用できて良い」、「ワードに質問を入力してから書き始めるのではなく、質問を選んで入力という手順がラク」との声が寄せられています。



今後の展望を教えてください。

当システムは民間事業者にて商品化が進められています。

現在**100を超える自治体から問い合わせ**があり、当市システムを流用することで、広く事務改善が低コストで図られることを期待しています。



☆担当：福島市 政策調整部 デジタル改革室☆

【参考情報】 福島市人口：27.3万人

関連URL：福島市デジタル化の推進 (<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/shise/kekaku/digital/index.html>)

22 「議会答弁検討システム」で事務負担・印刷物を大幅削減【福島県福島市】

参考資料

内製「議会答弁検討システム」画面イメージ

閉じる **答弁作成**

R4年3月／定例会議 代表 2 1-(2)-①

質問 ●●について 16番 福島 太郎 福島の会

ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた取り組みについて

市役所業務のデジタル化についての取り組みの進展について伺う。

答弁書
プレビュー

バックデータ付
プレビュー

担当課
情報政策課

答弁者
市長

校正 ● R4年3月4日 13時5分24秒
福島 太 政策調整部 情報政策課

市長 ○

部長 ● R4年3月3日 8時19分9秒
福島 太 政策調整部 情報政策課

作成 ● R4年3月3日 8時19分8秒
福島 太 政策調整部 情報政策課

答弁確認コメント

バックデータ

次に、市役所業務のデジタル化については、今年度、庁内に、デジタル化を推進するためのプロジェクトチームを設置いたしました。
新年度においては、政策調整部に「デジタル改革室」を新設して体制強化を図ります。窓口のオンライン化などデジタル改革を強力に推進する「デジタル推進課」と自治体情報システムの標準化など庁内の情報化を担う「情報企画課」を設け、本市のデジタル化を強力に推し進めてまいります。
デジタル化の各種施策につきましては、オンライン決済が可能な公共施設予約システムや市のLINE公式アカウントからオンライン申請手続きに簡単にアクセスできるシステムを新たに導入するとともに、行政手続きのオンライン化の拡充を図るなど、市民サービスの利便性向上に資する事務の高度化・効率化に取り組んでまいりました。
今後におきましても、LINEを活用した講座や相談の予約システムを導入するほか、マイナンバーカードの取得促進や「書かない」「待たない」スマート行政窓口、電子入札の導入など、あらゆる分野でのオンラインファーストを強力に推し進め、自治体経営のDXを推進してまいります。

2022/03/01 / R4年3月 / 定例会議 / 代表 / 16番-福島太郎 議員 / 1-(2)-①